

釧路湿原自然再生協議会
第23回 再生普及小委員会
議事要旨

日時：平成26年6月20日 金曜日 15:00-17:00

場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

1. 開会
2. 議事
 - 1) 行動計画ワーキンググループ経過報告
 - 2) 環境教育ワーキンググループ経過報告
 - 3) 再生普及行動計画の見直しについて
 - 4) その他
3. 閉会

事務局

(資料確認)

委員長

本日は、議題が三つあり、報告については、事務局からの報告に基づいて、質問を受けたい。再生普及行動計画の見直しについては、多様な意見を伺いたい。

特にこの再生普及小委員会は、ボランティア参加の一般市民、グループ団体の代表、行政、行政の代表と、違う立場が共同し仕事をする事が一番大きな課題になっている。それに基づき、10年目の行動計画の見直しについて意見を伺いたい。

【議題1、行動計画ワーキンググループ経過報告】

【議題2、環境教育ワーキンググループ経過報告】

事務局

資料説明。

委員長

再生普及行動計画の事柄に、多様性を持った意見や、釧路湿原に関する資料の使い方に

ついて、いかがか。

委員

様々な方が地域の資料を検索できるように数年前からデジタル化し毎年更新している。将来的には一般の方にも使えるようにしたいと考えている。

委員

釧路市役所で湿原に関するデータリストや文献、希少種について、デジタルでインデックスをつけてデータベース化したものがある。それをパネルや、航空写真の横に置くだけでもインパクトがあり、専門家等のコメントを書き添えていただき簡単な冊子にしたい。

委員長

デジタルアーカイブスが、完成すると、環境教育ワーキンググループの中で、学校教育の地域資料としても利用出来る。大きな釧路湿原の航空写真を展示し、同時に一般市民に向けての啓蒙的な資料として使える可能性がある。

委員

デジタル化の補足として、去年ぐらいから同じアーカイブの話で北海道と釧路のデータをリンクしたいという事で北海道にお貸ししており、北海道のデータに、釧路地域の部分が、取り込まれていると思うので幾らか役に立っていると思う。

【議題3、再生普及小行動計画の見直しについて】

事務局

資料説明。

委員長

第二期の5年間の評価、課題について、今日、意見をいただきたい。第二期の再生普及行動計画を三つの柱に、まとめ、これに関して数値化した結果、ある程度進んでいるという評価が減っている。これについて意見や感想いかがか。

委員

以前のボランティア活動では、カヌーでの清掃だけを提案していたが、その頃よりも自然の物を採ってその場で食べる企画の方が参加者増加へと繋がった。駆除や清掃するだけでなく、プラス何かをすると、次回参加への意欲も感じられた。

委員長

企画の立て方によっては、可能性ができているのかもしれない。

委員

最近、子供達が忙すぎて参加はしたいが出来ない状態が、あちこちでみられる。活動の範囲を広げていくのが難しくなっている時代だと思う。

委員長

企画の立て方だけでは解決しづらい問題か。
実施する側、企画を立てる側の行政は、この参加者のパーセンテージをどう評価しているか。

委員

行政では仕事の一環として企画するため、企画が平日となり、子供が参加できないのは、心苦しく感じる。

平日の参加者は時間的に余裕のある高齢者が多く、また、長期滞在者も参加しており、それは新しい収穫だと思っている。

土日に職員を作業させるのは、痛し痒しのジレンマに陥っているというのが実態である。

委員長

このような会議にしても同じく、開催の曜日や時間に関して、行政が仕事としての範囲内で行うことで常に問題を抱えている。それが企画を立てるときにも、問題となる。

委員

「数値化がしにくい」というのはそのとおり。数字は参考になり、数値化は必要であるが、それとは別に、我々の直感も大事にした方が良い。

今度の行動計画の見直しにあたっては、数字とともに皆さんの感覚や直感も大事にしな
がら、「変えるべきところは変えていく」という方向で良いと思う。私自身はこの 5 年 10
年は、かなり高く評価しても良いと思っている。

委員

地域と関わり、人をつなぐという件で、再生普及の対象が一般市民や学校の教育関係者、
子供が中心だが、森林再生を行う際、牧草地で堆肥が投げられている、糞尿が山積みにな
っている、雨が降ると砂利取り場から濁り水が出てくる事が見受けられる。一次産業にも
釧路湿原の環境、維持再生について、理解を求める必要があるのではないかと。

委員長

事務局からの説明にも一次産業の参加がほとんどないと出ていたが、第3期の行動計画で組み込めないか、今日、考えてみたい。

委員

一次産業の多くは、酪農や農業関係が中心になる。またコールマイン関係者も再生事業との関わりで、巻き込んでいけたらと思う。漁業と製紙工場も資源、森林関係では、関心、意識が高いのでこちらの間口を広げれば、一緒に活動できるのではないかな。

委員長

農業等、一次産業に従事している方も、湿原、自然、環境に対しては、繊細な感覚を持っている。ワンダグリンダとして何かの形で繋がり、接触を持ち、話し合いを続ける仕組みを用意することで突破口が開ける気がする。

第3期で、行動計画の柱を立てるとすれば、そういう形を組み込みたいと願っている。「参加する行動する」については、工夫の余地、参加する機会の多様化、参加対象の拡充を図る事を柱として、具体的な形で提示したい。もう一つはその「地域と関わり人を繋ぐ」というのは、地域の中で一次産業等が、湿原に対して関心や意識を持つ道筋や繋がりを付ける柱を5年間の目標に立てられたらと思うがいかがかな。

委員

この地域は特に公共事業の依存度が高いと言われているが、農業、水産業サイドから、アプローチする方法もあると思う。この湿原問題を取り扱っていく風潮を高めていくことが、2番目の参加行動を広げる事に繋がると思う。産業の振興、或いは雇用機会の増大に繋がる仕組みづくりがわかると、企業の社会貢献という欲求等を結びつけていき、2番目の問題解決になる。アンケート結果でも、第一次産業が、低調だと出たが、改善されていくのではないかな。

委員

この再生協議会自体が、基本的に行政の事業というのが前提にある。課題は市民と行政とのコラボレーションの根本的な問題だと思う。

委員

釧路のNPOが湿原保全に関わる事業を起こすぐらいの事を考えていかないと難しいと思う。

委員長

全体構想の第 5 章の 6 番目の持続的な利用と環境教育の促進である。この中でちょっと違和感があるのが 5 番、すぐれた景観の保全というのが、曖昧な文言に思う。

景観、ランドスケープに関しての関心は必要だが、それまでの具体的な文言に比べると、違和感があり、考える必要があると思うがいかがか。

委員

すぐれた景観の保全に関わるものを、具体的に住民に示すと良い。

委員長

学校教育の中の環境教育に、ほぼ限定してスタートした。社会の中での環境教育、学校教育以外の場所での環境教育の必要性や子供以外への環境教育、社会的な形も必要ではないか。

委員

同感だ。釧路湿原の環境に対するインパクトを与えているのは、経済活動である。学校での環境教育も必要であるが、経済活動に携わる大人たちへの環境教育も、重要である。

委員

「すぐれた景観の保全」をどこに記載するかについては、全体的な行動計画の見直しの中で考えていくべき話だと思う。

委員長

これは全体に関わる、ある小委員会が担当すべきことではなく、全体構想を見直すような形で、すぐれた景観の保全は、全体の目標、テーマとして掲げた方が解りやすい。

事務局

植生等の保全修復によって、湿原景観の維持、改善を図る目標の手法 1 番から 5 番までの手法も含めてどう変えていくと良いのか、意見を頂きたい。

委員

地域振興、観光振興に明るい学識者、商工会、観光協会のオピニオンリーダー的な方で、この再生小委員会に入っていただくか、もしくは別な小委員会があっても良いと思う。

委員長

再生普及小委員会の位置付けも変えた方が良いという意見も出ていて、重要な意見だ。

委員

釧路公立大学の佐野先生と先日商談した。その結果、地名度が高い釧路湿原のブランド化の案としては、一定条件をクリアした生産者には、再生協議会のオリジナル認定シールを貼って、市場に出荷する発想も面白い等と、専門的な見知から貴重な意見をいただいた。

委員長

経済的な視点を常に持っている専門家が、こういう場所にはいないため、考える必要がある。参考にしたい。意見を基に煮詰めて、また色々な形で提起して、新しい5年計画を作成するための参考にしたい。

事務局

その他として、秋山委員より公共施設見学ツアー告知をお願いします。

委員

【開発局が実施している公共施設見学ツアー（茅沼地区旧川復元）は、湿原を活用した観光振興の一つの取り組みとして紹介】

事務局

来週 25 日、全体構想見直しワーキングがこの合同庁舎 7 階第 5 会議室で 15 時半から開催する予定になっている。委員の方は参加をお願いします。

=閉会=